

港区教育アーカイブ通信_Vol.03

デジタルアーカイブを活用する、新しい教育方法に関する情報を発信☆

1 港区教育アーカイブ通信とは？

港区教育委員会では、港区のデジタルアーカイブ「[デジタル港区教育史](#)」
「[デジタル版 港区のあゆみ](#)」を活用した「港区デジタルアーカイブの教育活用コンテスト」を開催予定です。

コンテストに先立ち、デジタルアーカイブの教育に関する情報を、主に港区の小・中学校の先生に向けて発信します。



2 デジタルアーカイブとは？



『デジタル港区教育史』は地域学習や社会科、総合学習、探究学習等で活用できるお宝資料の山なので必見です☆
<https://adeac.jp/minato-city-kyouiku/top/>
各地のアーカイブを横断検索できる JAPAN SEARCH <https://jpsearch.go.jp/>
もオススメです♪

デジタルアーカイブとは、
デジタル技術を用いて作成されたアーカイブのことです。その対象は、博物館、図書館、文書館や自治体・企業等の資料など、有形無形の多様な文化資源で、今、学校での活用が期待されています！

3 どんなアーカイブがあるの？



4 どうやって活用すればいいの？



「港区教育アーカイブ通信」ではVol.1-Vol.3にかけて、
Ⅰ.「教材づくりの視点紹介」
Ⅱ.「港区教育アーカイブのピックアップ資料紹介」を掲載しています！ ご参照下さい♪



港区教育アーカイブ通信_Vol.03

デジタルアーカイブを活用する、新しい教育方法に関する情報を発信☆

I 教材づくりの視点紹介



Vol. 3: 「教科横断的」な視点

このコーナーではデジタルアーカイブを教材化する際の視点を少しずつ紹介しています。Vol.1では、「問い」の誘発、Vol.2では、「繋ぐ」こと、という視点を紹介しました。

最終回となる今回は、「教科横断的」な視点について紹介します。今後の時代を生き抜くためには、複数の専門知を組み合わせる課題解決的な視点で物事を捉え、実践していく力の育成が求められています。そうした観点でも、既存の教授方法や教科観の枠組みにとらわれない視点での授業デザインの需要が高まっています。

デジタルアーカイブ資料は歴史的な資料が多いですが、社会科だけでなく、総合学習・探究学習・国語・美術・保健体育・防災・図画工作・算数・地学・生物・ESD (Education for Sustainable Development) など、様々な科目で活用できます。

さらに社会科×国語・歴史×保健体育など、従来の教科観や既成概念に捉われず、教科横断的な視点で教材を制作してみても面白いかもしれません。このように、教科横断的な視点でデジタルアーカイブを活用した教材づくりを行なってみてはいかがでしょうか。

II 「見る・知る・伝える ～港区教育アーカイブ～」のピックアップ資料紹介

資料名:「三光いろはガルタ」

一言紹介:

昭和50年に子ども・先生・地域住民が協力して作り上げた三光小学校オリジナルのカルタです。各地域で、地域学習の成果をオリジナルカルタで表現すると楽しそうです。

また、地域学習に限らず、学習成果を絵で残すという手法も面白そうです。



III 「港区デジタルアーカイブ教育活用コンテスト」開催のお知らせ

部門:教材部門、授業プラン・実践報告部門

応募期間:令和4年12月1日(木)～令和5年1月24日(火)

応募資格:教員、学生、司書、学芸員等(港区在住・在勤・在学以外の方も歓迎!)

賞:教育長賞、優秀賞(副賞あり)

※詳細につきましては、港区HP上記リンク・QRコードよりご確認ください。



「港区教育アーカイブ通信」に関する問い合わせ: minato07@city.minato.tokyo.jp

港区教育委員会事務局教育推進部教育長室教育史編さん担当